

全酪連会報 1

2019 JAN No.640

新年の御挨拶

代表理事会長 砂金甚太郎
農林水産省生産局長 枝元真徹

酪農とのかけはし／
伊藤有輝さん

総務部だより／
全酪連本所及び子会社等
移転のお知らせ

酪農業に対する
理解醸成活動報告 後編

酪農トピックス／
酪農生産研究会 主催
「第2回会員職員研修会」を開催！
(名古屋) ほか

日本酪農見て歩紀／
西館牧場 岩手県二戸郡一戸町



www.zenrakuren.or.jp/business/kobai/calftop/



全国酪農業協同組合連合会



ZENRAKUREN

新年の御挨拶

全国酪農業協同組合連合会
代表理事会長

砂金 甚太郎



新年明けましておめでとうございます。

全国の酪農生産者・会員の皆様及び関係者の皆様におかれましては、良き新春をお迎えのこととお慶び申し上げます。

日頃より、弊会事業に特段のご支援ご協力を賜り厚く御礼申し上げます。

平成31年の年頭に当たりまして、一言ご挨拶申し上げます。

さて昨年1年を振り返りますと、国内においては、次々と列島を縦断する台風や平成30年7月豪雨など、酪農経営を直撃する自然災害が多発し、飼料及び生乳流通経路の寸断、牛舎等の設備の破損、停

電による生乳の廃棄などの大きな被害が発生しました。また9月には北海道胆振東部地震が発生し、全道が停電に陥り、酪農・乳業界は多大な打撃を被りました。

改めて被害に遭われた酪農・乳業関係者に心からお見舞いを申し上げます。

また昨年は、前年に引き続き企業の社会的責任が大きく問われた1年となりました。建物の地震装置のデータ改ざん問題、航空機操縦士の飲酒問題、シェアハウス関連の不正融資問題、大手自動車メーカーの役員報酬を巡る不正疑惑など枚挙に暇がありません。

全酪連としてもこうした事例を教訓に、中期事業計画の基本施策に掲げるコンプライアンス経営を着実に遂行することにより、健全な組織運営と内部統制機能の強化に努めてまいります。

一方、世界の情勢に目を向けますと、米中貿易摩擦が長期化しておりますが、この影響が飼料原料価格の動向にまで及んでいます。また、こうした貿易不均衡に対する米国の強硬な姿勢が我が国に対しても向けられるのか、TPP11協定や日EU経済連携協定が日米2国間の貿易交渉にどのような影響をもたらすのかなど、酪農にも大きく関わる問題であり、今後の動きに注視が必要です。

このような中、我が国の酪農情勢につきましては、乳牛頭数こそ増加に転じましたが、都府県を中心に酪農家戸数、生乳生産量の減少が依然として続いております。また先に述べたとおり、近年は自然災害が酪農経営にもたらす被害も深刻化しています。

言うまでも無く、日本の酪農は、安心・安全で高品質な牛乳乳製品を毎日供給することにより、日本国民への栄養補給の根幹を担っているばかりでなく、飼料作物などの生産・利用を通じた資源循環型農業の基幹として、国土保全などの役割をも担って

おり、さらには地域経済の振興にも貢献しています。酪農業が衰退していいことは一つありません。

こうした酪農の危機的状況への対処が、酪農専門農協の全国連である全酪連に課せられた使命であると考えています。本年は、全酪連の3ヶ年の事業方針となる第十一次中期事業計画の中間の年でございます。搾乳後継牛の確保や酪農後継者の支援などの諸施策を引き続き遂行していくほか、2月には本所及び在京の支所・子会社の、新しい酪農会館への移転を予定しております。これにより一般社団法人全国酪農協会をはじめとする酪農関係団体との連携を深めるとともに、酪農中央団体の業務の効率化を図ることが可能になります。

私も全酪連といたしましては、今後も引き続き、全国の酪農生産者・会員の皆様のご協力と行政・関係団体のご指導ご支援を賜りながら、我が国酪農生産基盤の維持・拡大に尽力する所存であり、少しでも現在の酪農情勢の好転に貢献することができれば幸いです。

最後になりますが、全国の酪農生産者・会員役職員の皆様のご健勝とご発展をご祈念申し上げます。新年のご挨拶とさせていただきます。

年頭の御挨拶

農林水産省生産局長 枝元 真徹

明けましておめでとうございます。

平成31年の新春を迎えるに当たり、一言、御挨拶を申し上げます。

災害復旧・国土強靱化

昨年は、西日本を中心とした7月豪雨や相次ぐ台風、北海道胆振東部地震等の多くの自然災害が発生し、畜産業も大きな被害を受けました。農林水産省では、被害により不足する粗飼料の購入や簡易畜舎の整備、畜舎・機械の簡易な修理、家畜導入等に対し支援を行いました。

特に、北海道胆振東部地震では、全道一円に及ぶ長時間の停電により、多くの酪農家が生乳廃棄を余儀なくされたことを踏まえ、乳房炎の予防管理の取組や停電時の電力確保に要した発電機の借上げに加え、酪農家の非常用電源の整備に対する支援を充実しました。

農林水産省としては、被災された皆様が、今後も畜産業に対する希望をもって、前向きに復旧・復興に取り組

んでいただけるよう、引き続き全力で支援するとともに、昨年12月に公表された「防災・減災、国土強靱化のための3か年緊急対策」に基づき、大規模停電時に稼働を確保すべき基幹となる畜産関係施設（酪農家、貯乳施設、乳業施設、食肉処理施設）について、停電時の対応計画の作成及び非常用電源設備の導入等を支援してまいります。

最近の国際情勢等

畜産・酪農を取り巻く国際情勢につきましては、昨年12月30日にTPP11が発効し、我が国とメキシコ、シンガポール、ニュージーランド、カナダ、オーストラリアとの間で協定が適用され、本年1月14日からベトナムとの間でも適用されることになりました。また、日EU・EPAについても、本年2月1日に発効することとなり、我が国畜産業をめぐる国際環境は新たな段階を迎えることとなります。農林水産省としては、「総合的なTPP等関連政策大綱」に基づき、加工原料乳

生産者補給金制度の対象に生クリーム等の液状乳製品を追加し、単価を一本化する補給金制度の見直しを協定発効に先立つ平成29年度に実施しているほか、昨年12月末のTPP11協定の発効に合わせて、

①牛マルキンや豚マルキンの補填率の引上げ

②肉用子牛の保証基準価格の現在の経営の実情に即した見直し等を実施しました。

これらの措置を通じて関税削減等に対する農業者の懸念と不安を払拭し、協定発効後の経営安定に万全を期すとともに、これまでの体質強化対策の実績等の検証を踏まえ、必要な施策を実施してまいります。

また、日EU・EPAの合意結果を受け、国産チーズの競争力を高めるための原料乳の低コスト・高品質化の取組の強化、チーズ工房等における製造コストの低減や品質向上・ブランド化等を支援してまいります。

生乳生産・酪農経営の安定等

我が国の酪農をめぐる情勢につきましては、乳用牛の飼養頭数が昨年、16年ぶりに増加に転じるなど、明るい兆しも見える一方、高齢化や後継者不足による酪農家戸数の減少等に伴い、生乳生産量は減少傾向で推移しており、平成30年度についても前年度を下回ると見込まれております。

このように、国内の生乳生産事情は依然として厳しく、酪農・畜産の生産基盤の強化は、引き続き喫緊の課題となっております。農林水産省としては、体質強化対策として、畜産クラスター事業を活用した施設整備や機械導入、性別別精液の活用による優良乳用後継雌牛の確保等の取組を実施していく考えです。

昨年は、改正畜産経営安定法に基づく、新たな加工原料乳生産者補給金制度の運用が始まりました。従来の制度では、指定生乳生産者団体へ生乳を出荷する者に限られていた補給金の交



付対象者を、新たな制度では、指定生産者団体に限らず「乳業に直接生乳を販売する酪農家」や「自ら乳製品を加工・販売する酪農家」にまで拡大しました。これにより、新たに79事業者が補給金の交付対象者となったところです。

新たな制度の適正かつ公正な運用に努めてまいりますので、引き続き関係者の皆様方の御理解・御協力を賜りますようお願いいたします。

肉用牛生産・畜産経営の安定等

牛肉や子牛価格は平成27～28年度の価格高騰のピークは過ぎたものの、依然として高い水準で推移しています。また、肉用子牛生産については、生産者の高齢化等により農家戸数や飼養頭数が減少傾向にありましたが、繁殖雌牛の飼養頭数は平成28年から3年連続で増加するなど回復の傾向にあります。農林水産省といたしましては、こうした動きを確固たるものとするため、引き続き、肉用子牛生産者補給金制度、牛マルキン等の経営安定対策を着実に実施するとともに、畜産クラスター事業を活用した省力化機械の導入やキャトルステーションの整備、受精卵移植の活用による効率的な和子牛生産、IC

Tを活用した省力化技術の活用等により、肉用牛生産基盤の強化を支援してまいります。

国産飼料の増産・配合飼料価格への対応等

輸入飼料への過度の依存から脱却し、飼料生産基盤に立脚した足腰の強い畜産経営を実現するため、草地の生産性向上、ICTを活用した飼料生産作業の効率化、子実とうもろこし等の生産拡大、農場残さ等未利用資源の活用等に対する取組を支援し、国産飼料の一層の増産と着実な利用の拡大を推進します。

あわせて、配合飼料価格については、短期的かつ急激な上昇に対しては配合飼料価格安定制度、中長期的な高止まりに対しては経営安定対策を組み合わせて措置することで、畜産経営の安定を図ってまいります。また、配合飼料価格安定制度については、補填財源の確保及び借入金計画的な返済を促すことにより、引き続き、制度の安定的な運営に努めてまいります。さらに、良質かつ低廉な農業資材の供給等に向けて「農業競争力強化支援法」及び「農業競争力強化プログラム」に基づき、①事業再編、②飼料価格の「見える化」及び③銘柄集約等の取組を進めてまいります。

畜産物の輸出への対応等

我が国において、人口減少が進む中、我が国の農畜産業は、国内の1億人だけではなく、世界の75億人を見据えた輸出産業への転換が必要と考えています。また、本年、政府は農林水産物・食品の輸出額1兆円目標を掲げており、そのうち、畜産物の輸出額目標は463億円となっています。

畜産物の輸出額については、平成29年には373億円と過去最高となり、平成30年も牛肉を筆頭に堅調に伸びており、本年の輸出額目標の達成に向けて順調に推移しています。

農林水産省としては、輸出先国の要件を満たす食肉処理施設の整備や、統一マークを活用したオールジャパン体制でのプロモーション等を支援するほか、引き続き輸出先国の輸入規制の緩和・撤廃に向けた交渉を行うなど、輸出額目標の達成に向けて全力で取り組んでまいります。

併せて、2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会などの機会に、国産畜産物の良さを見える形でアピールできるよう、日本版畜産GAPの普及などに取り組んでまいります。

東日本大震災・原発事故からの復旧・復興

原発事故に関しては、安全な畜産物を供給するため、適切な飼養管理の徹底と検査体制の強化、草地除染と汚染廃棄物の処理等に関係省庁等と連携して実施するとともに、「食べて応援しよう!」のキャッチフレーズの下、被災地及び周辺地域で生産・製造されている農林水産物の積極的な消費拡大を促進してまいりました。本年も、生産者が一日も早く営農再開を果たせるよう、引き続き取り組んでまいります。

御承知のとおり、我が国の畜産業は、農業総産出額の約4割を占める重要な産業であり、安全・安心な畜産物を消費者に安定的に供給するだけではなく、地域経済の維持・活性化、良好な景観の形成等の多面的な機能の発揮を通じ、国民生活において重要な役割を果たしております。農林水産省としては、以上のような取組を着実に実施することにより、我が国の畜産業の一層の発展・充実を図るとともに、食の安全と消費者の信頼確保に努めてまいります。皆様におかれましては、昨年にも増して、畜産行政への御理解と御支援を賜りますようお願い申し上げますとともに、皆様方の一層の御健勝と御活躍を祈念いたしまして、新年の御挨拶とさせていただきます。

酪農との かけはし



現職に携わるまで

実家は根室市の酪農家で、私自身も本校の前身の酪農学園大学附属高等学校を卒業し、酪農学園大学へ進みました。入学時には実家を継ぐつもりでしたが、長男が継ぐことになり、大学生の時に進路を変更しました。牛とかかわる仕事がしたかったですし、人と接することが好き



▲ 伊藤有輝先生

仕事のやりがい

でしたので、「教師」という道を目指すことにしました。卒業後、公立高校の教員として採用され農業高校3校に勤めましたが、残念ながらいずれも乳牛は飼養していませんでした。平成12年に本校に採用され、乳牛をメインに担当し、共進会・酪農教育ファームにも力を入れてきました。現在は実習部長として実習をメインに生徒と関わっています。

本校、特に機農コースはその特性から将来のビジョンを強く持つて入学する生徒が多くいます。数ある選択肢の中から目的を持つてとわの森に入学してくる生徒たちに接し、寄り添い送り出していくという教師生活は大変

第17回 とわの森三愛高等学校 機農コース 実習部長

夢ある酪農に生徒を 導く情熱溢れる先生

いとう ゆうき
伊藤 有輝さん

略 歴：酪農学園大学附属とわの森三愛高等学校 実習部長。

北海道根室市出身。ご自身もとわの森三愛高校(当時は酪農学園大学附属高等学校)の卒業生であり、酪農学園大学を卒業後、道内の農業高校3校において教鞭をとる。平成12年よりとわの森三愛高等学校の教諭として畜産・実習を担当。現在は実習部長として、実習をメインに全生徒と関わっている。

生徒への指導と期待

酪農の技術、知識に限らず、社会に出たときに困らないように授業以

やりがいがあります。私は本校で多くの卒業生を送り出していますが、それぞれが大学に進学したり実家を継いだりと自分の夢を実現しています。たとえ入学当初描いていた進路から変更したとしても、3年間のうちに自身でそれぞれの道を見つけて卒業していく生徒たちは本当にたくましいと感じます。中には3世代に渡り本校の卒業生といったご家庭もあり、大きな信頼のもと生徒たちをお預かりしているという意味では責任も大きいです。同時に、自信を持つて社会に送り出したという強い気持ちを持っています。

▼ 高校生がメインに使用するつなぎ牛舎。農業クラブの共進会班が練習を行っていた。



▲ フリーストールのパーラー設備。実習の様子を見やすくするため、シングル方式とした。

外でも積極的にコミュニケーションをとるようにしています。その点では本校は全寮制で生活面でも生徒に近いので、私たちも家族のように思っ接していますし、生徒たちも気軽に話してくれます。寮生活の中でも生徒の会話は酪農の話題が多く、自分の実家の経営を客観的に見つめる

伊藤 有輝さんの

1日のタイムスケジュール

5:30 ▶	実習指導 (搾乳・飼養管理実習)
7:30 ▶	
8:15 ▶	職員朝会
10:00 ▶	2年生の総合実習授業
11:30 ▶	
13:00 ▶	現場スタッフ・授精師・ 獣医師との打合せ
14:00 ▶	
16:00 ▶	共進会活動指導
16:30 ▶	実習指導 (搾乳・飼養管理実習)
18:30 ▶	
19:00 ▶	授業・実習準備

全国の酪農家に一言！

私は酪農には大きな未来があると思っていますし、この素晴らしい職業にぜひ生徒にも携わってもらいたいという気持ちで日々接しています。皆さんにはこれからも夢を描けるような酪農を続けていただきたいです。そして、本校の生徒に限らず夢を持った若者が酪農の世界に飛び込んだときには、温かく育ててもらいたいと思っています。

▼平成12年竣工の牛舎設備。つなぎ牛舎の他にパーラー、ロボットなど多種の飼養形態で実習が可能で、将来をイメージすることができる。



▲清掃の行き届いた牛舎内部。「食べ物の生産現場」であることを自覚させるため、牛舎はすみずみまで清潔に保つよう指導している。

機会にもなりますので、お互いに刺激を受け成長につながっていると感じます。

また、本校は酪農家の子弟が多いように思われますが、非農家の生徒が酪農や北海道に憧れて本校に入学するケースも珍しくありません。酪農の未来を感じ、嬉しく思います。体を使った作業や牛に触れることも初めての生徒もいるので、1年生の実習には特に気を遣いますが、牛舎

作業は基本的にはすべて生徒の実習で行います。牛群管理・生乳出荷へのリスクはありますが、それが生徒の成長への一番の近道だと思っています。牛舎は効率性や生産性を重視した「酪農家目線」になっていますので、中には思い描いていた牧歌的な酪農のイメージからギャップを感じる生徒もいますが、徐々にそれらの重要性を理解してくれま

ある3年間の道内各地の酪農家実習を通して、お客様として訪問していた体験牧場にスタッフとしてかわることで、普段の経営を目的とした実習や知識の大切さに気が付くことでもあります。酪農家実習先の選定にあたっては、生徒の希望の他に、スパイスとしてこちらの意図も組み入れています。入学してくる生徒はさまざまですが、それぞれの目的に向かってなるべく気持ちがぶれないように、生活・授業・実習を通じて多くのことを吸収しながら成長してもらいたいと思っています。

伊藤さんが感じる酪農の魅力と今後の酪農に望むこと、

今も昔も酪農は牛と触れ合って家族と一緒に仕事ができることが魅力だと思っています。私も本校で牛に携わって思うのは、毎日牛という生き

物に接し、日々の変化に気付いて手を掛ける、すると牛もその分だけこちらに返してくれる、そういうところに魅力とやりがいを感じます。また私は道東の出身なので、酪農は地域コミュニティにも貢献していると感じます。今は大規模な酪農経営も増えてきましたが、私個人としては昔からのファミリー牧場にもぜひこれから発展を続けて、地域を守ってほしいと思います。



▲ ずらりと並んだ共進会のトロフィー。
第9回全日本ブラックアンドホワイトショウ
第1部未経産クラス(9月以上12月未満4位) 優秀学校賞
第53回道央酪農祭 未経産準最高位賞(16~17月2位)
トワノモリ MF マツカチエン ハルミル ET 17.4.17生

名古屋
支所発酪農生産研究会獣医師部会 主催
「第2回研修会」を開催！

12月1日(土)に全酪連名古屋支所（愛知県名古屋市）において、酪農生産研究会獣医師部会（事務局 名古屋支所）主催による「第2回研修会」が開催されました。

獣医師部会は行政、農業共済組合、開業の獣医師が会員となって構成されている部会です。



▲ 代表して山本獣医師より
開会挨拶

この度の研修会は全酪連名古屋支所の若手職員が中心となって結成した「哺乳ロボットチーム」による哺育育成管理、管内での自動哺乳ロボットの事例などを中心に研修会を行いました。

またデモンストレーションとして現場で獣医師として指導活躍している若手の参加者の方々に全酪連製品である初乳粉末製品「グッドスタートプレミアム」、代用乳「カーフトップEX」を実際に手に取って頂き、給与例に従い作成し溶解性の良さを実感して頂きました。

研修会の最後はディスカッションの場を設けました。出席した会員の方々からは自動哺乳ロボットの操作方法など様々な質問が出てとても活発な研修会となりました。

本日の研修会が会員の方々のお仕事に役立つ様願っております。
(T.K)



▲ 研修会 風景



▲ こちらは「カーフトップEX」を実際に作って頂きました。
素早く溶けて溶解性も抜群！



▲ 実際に「グッドスタートプレミアム」を溶かして頂きました。
素早い溶解性に驚き！

名古屋
支所発

酪農生産研究会 主催 「第2回会員職員研修会」を開催！

11月21日(水)に全酪連名古屋支所（愛知県名古屋市）において、酪農生産研究会（事務局 名古屋支所）主催による「会員職員研修会」「粗飼料研究会米国視察報告研修会」が開催されました。

米国視察研修に参加した飛騨酪農農業協同組合 長瀬和仁氏、東海酪農農業協同組合連合会 寺本圭佑氏、全酪連名古屋支所 大嶋勝飛氏を講師として、米国内の現地サプライヤーの紹介、牧草生産現場や酪農情勢などについて報告して頂きました。

また出席した会員の方々からは今年の輸入乾牧草の情勢など様々な質問が出てとても活発な研修会となりました。

当研修会終了後、引き続き全酪連名古屋支所 大嶋勝飛氏による哺乳ロボットの製造元である「フォスターテック社技術研修報告」が行われました。

本日の研修会がより一層会員の方々のお仕事に役立つ様願っております。
(M.K)



▲ 研修会 風景



▲ 講師 左から 長瀬氏、大嶋氏、寺本氏

名古屋
支所発

愛知県酪農農業協同組合青年女性部 全体研修会「ソフトバレー」開催

愛知県酪農農業協同組合青年女性部（岩田周部長）主催の全体研修会「ソフトバレー」が、11月27日(火)愛知県総合畜産センター ふれあいドーム（愛知県岡崎市）にて総勢32名の酪農生産者、関係機関が参加して盛大に開催されました。

ソフトバレーは6人制で、選手は3チームに分かれて、2セット先取の総当たり戦で競い合いました。

日頃、酪農作業で鍛え上げた体力で、ボールを追いかけてコートの中を所狭しと軽快に疾走していました。

また苔玉（コケ玉）作りも同時開催で行い、参加した皆さんは思い思いの作品作りに挑戦し、交流を深めました。

競技終了後は、女性部の皆さんが持ち寄った料理で昼食会を行い、各々豪華な食事の前に舌鼓を打っていました。

この後、役員による意見交換会を行い無事全体研修会を終えました。
(T.K)



▲ 岩田委員長



▲ ソフトバレー大会



▲ 昼食会は女性部の持ち寄りで！



▲ コケ玉作りに挑戦！



▲ 出来上がった作品の一部

大 阪
支所発

中四国酪農団体協議会が「管内視察研修」を開催

去る12月5日(水)・6日(木)全酪連中四国酪農団体協議会(岡田会長、20会員)は、兵庫県において、平成30年度管内酪農事情視察研修を開催しました。

6月13日開催の通常総会において、今年度の研修テーマを「雇用の確保」とし、同日に講演会を開催、9月12日から14日にかけて関東方面での管外酪農事情視察研修を開催、この研修はその3つ目となります。

今回の研修は、兵庫県酪農農業協同組合にお世話になり県内3か所で「雇用の確保」に関する研修を開催しました。研修1日目は、兵庫県酪農農業協同組合において、兵庫県の酪農情勢について説明を受けた後、兵庫県酪農ヘルパー利用組合のスマートフォンやパソコンを利用した管理システム(ヘルパーの出役計画・管理、ヘルパー要員からのスマートフォンによる出役実績の報告からヘルパー利用料金やヘルパー給与計算への展開など)の説明を受けました。このことで、出役報告書をもとに出役実績を入力する手間がなくなり、事務要員も緊急の場合はヘルパーとし

て出役できる体制を取っているとのこと。研修2日目は、兵庫県立播磨農業高等学校において、卒業生の進路状況等の説明を受けた後、生徒を送り出す側として受入側に希望することなどについての意見交換を行いました。就農やヘルパー要員として働きたいという生徒はいるが、今一度、受入側として意識改革と環境整備をしてもらい、安心して送り出せるようにしてほしいとのこと。もう一つの研修先として、ヤマギシズム社会北条実顕地で搾乳ロボットを視察しました。労働力の確保として今年の春に4台の搾乳ロボットを導入、分娩直後や乳房炎牛等を除く牛はロボットで搾乳しているとのこと。1台当たり搾乳頭数は50頭程度で、ピーク時に日量70kg出した牛は5回搾乳を記録していたとのこと。

生乳生産基盤の維持のためには、機械化やICT技術がいくら進んだとしても、やはり若い力が加わり、そして育っていくことが何よりも大切です。そのためには受入側として、もう一步の意識改革と環境整備が必要のようです。(I.K)



▲ スマホによる管理システムの説明を受ける



▲ 搾乳ロボットでの搾乳



▲ 播磨農業高校畜産科教諭から希望を聞く



▲ 播磨農高の概要説明を受ける

福岡支所発

「第46回鹿児島県酪農青壮年女性親善スポーツ大会」開催される

平成30年12月16日(日)鹿児島県酪農青壮年女性会議(大渡康弘委員長)による「第46回鹿児島県酪農青壮年女性親善スポーツ大会」が、国分スターレーンにて開催されました。

会場には酪農家及び酪農関係者121名と多くの参加者が集いました。

同会議事務局長の鹿児島県酪農協の里指導購買部長による開会宣言、大渡委員長による主催者挨拶、そして前年チャンピオンの優勝旗返還の後、一斉に競技が開始されました。

当日は日曜日ということで、子供連れのご家族も多く、お子さんたちの元気な笑い声が沢山聞こえ、ストライクができれば皆でハイタッチ!!たいへん盛り上がる大会となりました。本大会では、瀬娃Aチームが団体優勝を収めました。

そして、大会後の懇親会では、美味しい昼食と豪華景品が当たる、ビンゴ大会とじゃんけん大会が行われました。こちら、非常に盛り上がり笑顔の絶えない懇親会となりました。

本大会を通して、参加者同士、さらなる親交を深めることができました。(I.S)



▲ ストラ〜イク!



▲ おめでとうございます!



▲ じゃんけ〜ん、ポン!

福岡支所管内



● 別府公園

● 「大分県農林水産祭」(大分県別府市)

開催日: 10月13日(土)

参加者: 大分県酪農青年女性会議他 23名



● みどりの王国(大分県酪・九州乳業敷地内)

● 「第33回 ななせの里まつり」(大分県大分市)

開催日: 11月4日(日)

参加者: 大分県酪農青年女性会議他 13名

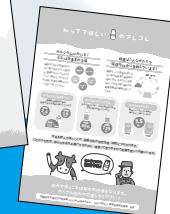


● 水辺の森公園

● 「ラブフェス2018」(長崎県長崎市)

開催日: 10月20日(土)~
10月21日(日)参加者: 長崎県酪農
青年女性会議他 5名酪農業に対する
理解醸成活動報告

後編



● 熊本県家畜市場

● 「らくのう体験教室」(熊本県菊池郡大津町)

開催日: 11月11日(日)

参加者: 熊本県酪農青壮年部協議会、熊本県酪農女性部協議会、
熊本県乳牛改良同志会他 25名

西館牧場
岩手県二戸郡一戸町

消費者の声を聴きながら、 安心・安全な牛乳生産

岩手県二戸郡一戸町

地域の概要

今回訪問した西館牧場がある岩手県二戸郡一戸町は岩手県の内陸北部に位置し、北上山地と奥羽山脈に囲まれており、山林・原野が町の6割を占める高原の町です。年間平均気温は7・7℃で夏季冷涼な高原型の気候で、西館さんが酪農を営む奥中山地域は、酪農や畜産、レタスなどの高原野菜を主とした純農村地帯で、近隣にはスキー場、温泉、自然休暇村など四季を通じて家族連れで楽しめる施設が沢山あります。

西館牧場が所属する新岩手農業協同組合（小野寺敬作代表理事組合長）は、酪農家戸数422戸、生乳出荷数量131,811t（平成29年度）となっています。

牧場の概要

西館牧場は、ご主人の太一郎さん（64才）で2代目。奥様のけさ子さん、三男の尋也さん（27才）、若奥さんの遥さんの4人で経産牛48頭、育成牛33頭、受精卵採取のための繁殖和



▲（左から）遥さん、尋也さん、太一郎さん、けさ子さん



▲ 牧場全景



▲ 搾乳牛舎

牛3頭を飼育・管理しています。太一郎さんと尋也さんは牛舎・飼料畑などの作業全般を、けさ子さんと遙さんは哺育牛の管理などをしていきます。自給飼料は、借地を含めてリードカナリー主体の牧草地が約12町歩、デントコーンは約4町歩ほど作付けしています。搾乳牛の導入はほとんどせず、自家育成で賄うようにしています。

西館牧場は、太一郎さんが生まれる以前に、ご両親がこの地に入植したのが始まりで、当時は米やビート



▲ 大型ファンでトンネル換気

Non-GMO牛乳への取り組み

などを栽培していました。乳牛が初めて導入されたのは、太一郎さんが中学生の頃だったと言います。その後10頭ほどに徐々に増やしてきたこと。太一郎さんが30才のころに30頭規模まで増やし、本格的な酪農経営が始まりました。その後、牛舎の増改築を繰り返し、現在に至ります。

西館牧場では、15～6年ほど前からNon-GMO牛乳の生産に取り組んでいます。消費者の求める声と、奥中山高原の牛乳にもう一つブランドをと探る生産者との考えが

一致し、地域の酪農家で何度も検討を重ねた結果、概ね3分の1の15戸ほどの酪農家が賛同し、取り組むこととなりました。

取り組み始めた頃は、「喜んでもらえる牛乳を出荷しなければ」という責任と、「消費者の直接の要望に応える」という遣り甲斐を感じました。当然今でもその気持ちは持ち続けていますと、太一郎さんは語ります。

「Non-GMO牛乳を卸しているパルシステム（関東地方を中心とする10の生協団体。宅配事業を展開している）とは年に2度の交流会があり、先日、改めてNon-GMO牛乳のパックを手取る機会がありました。」

「この中に自分たちが搾った牛乳が詰められ、首都圏の家庭に宅配されているんだ」と思うと、その感慨もひとしおです」

パルシステムは、良質な牛乳を生産していただいている酪農家へのお礼の意味も込め、「酪農家さんにタオルを送ろう運動」を行っています。消費者の家庭で使わないタオルを

産地に送ってくれ、非常に助かっているそうです。同時に消費者の皆さんからの直筆のメッセージも届ければ、「いつもおいしい良質な牛乳をありがとう」とか「送ったタオルが、牛たちのお世話に役に立つと思うとワクワクします」といった言葉に、消費者の方々も牛乳作りに参加しているという意識が感じられ、「もっと頑張っ続けていこう」とモチベーションが高まると太一郎さんは話されます。

一方で、Non-GMO牛乳の生産には使用できる原料に制限があり、非遺伝子組み換え原料を使用している証明書類の確認など、月に1度の飼料の検査があります。しかし、「鶏・豚や牛肉などのように地域ブランドを牛乳でも」と、低



温殺菌処理した奥中山高原産の Non-GMO 牛乳も多く、消費者に味わってもらいたいと、太一郎さんは話します。

苦労を重ねながらも歩んでいた Non-GMO 牛乳生産も、東日本大震災の際は電気が4～5日止まり、ガソリンもなくなり作業をすべて止めなければならぬ状況になりました。牛乳工場も受け入れができず、せつかく手搾りしたものの廃棄せざるを得ない日々が続きました。牛も調子を崩し始めて発情は乱れ、生産が減ってしまった時期がありましたが、その後回復し、今では震災前の注文量を上回っています。

「子供がこの牛乳しか飲まないんです」という声もありますが、今は生産農家が4戸になってしまったことからこれ以上の注文に応えられず、痛し痒しのところがあります。生産者の高齢化に伴い戸数が減ってきており、ここ最近は需要を満たすのにギリギリの乳量で、もう1軒、1日に1,000kgぐらい生産してくれる農家が参加してくれば十分需要に応えられるのですが、生乳の分別管理のために、集乳車は Non-GMO 農家を最初

に回ってくるので集乳時間が変わるし、飼料も変わり作業体系も変わるなど、そのあたりも理解していた上で Non-GMO 牛乳の生産に参加していただくことになりましたがと、太一郎さんは仲間が増えることを期待しています。

省力化、繁殖第一

後継者の尋也さんは幼いころから酪農に興味を持ち、トラクターにも喜んで乗っていたお子さんだったそうです。小学校の時は、近隣農家に搾乳ロボットが入った際に、総合学習の自由研究の題材にして研究発表をするほどでした。幼いころから「酪



▲ 消費者の要望に応える3代目の尋也さん

農は自分が継ぐ」との意識があり、専門学校を卒業後、すぐに就農しています。

昨年、太一郎さんが体調を崩し、1か月ほど入院していた時期がありました。その間、牛舎は奥さんと尋也さんの2人で管理していました。尋也さんの2人で管理していました。が、乳量が出ていた時期に重なったこともあり、お二人は毎日15時間牛舎にいるような生活が続いたそうです。酪農ヘルパーや農協職員の方々の協力もあり、何とかこの状況を乗り越えましたが、この先、同じようなことがないとも限らないと考え、現在は将来の省力化に向けて自動給餌機導入の準備をしています。

「労働力が低下しているのは事実なので、まずは自動給餌機の導入で省力化を。飼養管理も楽になると思いますし、その分、牛を観察する時間を設けることで、繁殖に目を向けることもできます」と尋也さんは話されました。

尋也さんは授精師の免許を持ち、自ら精液を選び授精しています。親牛の能力や、後継牛の頭数を鑑みながら3頭の繁殖用和牛を用いて受精卵移植にも取り組んでいます。共進会にも足を運び、酪農家同士の交流

の場として情報交換に積極的です。他の家の牛も見ることができると、良い情報はもちろん、失敗談も聞ける場として顔を出すようにしているそうです。

「繁殖管理が一番大切だと考えており、自分で授精を行う分、より意識しています。そこで躰くと生産性にすぐに影響してきますから。現在の分娩間隔が420日程度なので、一年一産とはいかなくとも、コンスタントに400日を下回るようにしたいと思います。分娩が同じ時期に重ならないようになり、バルク乳の変動も少なくなれば収入も安定します。そうなれば、今の牛舎でも十分やっていけるのではと考えています」と、尋也さんは将来を見据えてしっかりと計画を立てています。

「低温殺菌処理の Non-GMO 牛乳は他の牛乳と差別化されており、特殊な牛乳を生産していると自負していますし、とても貴重だと考えています。それを待っている人がいるという喜びを感じながら、今後も続けていきたいです」と語る太一郎さん、尋也さんをととても頼もしく感じました。

平成31年
2月25日

全酪連本所及び子会社等 移転のお知らせ

全国酪農業協同組合連合会(全酪連)は、このたび

本所、東京支所及び子会社等の事務所を「酪農会館(渋谷区代々木)」へ移転いたします。

これを機に皆様のご期待に応えるべく役職員が一丸となり、

わが国酪農生産基盤の維持・拡大のため、

なお一層の努力で事業を推進してまいりますので、

引き続き倍旧のご愛顧を賜ります様、

宜しくお願い申し上げます。

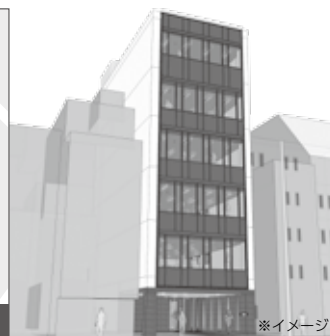


〒151-0053
東京都渋谷区代々木一丁目
37番地2号 酪農会館

Tel. **03-5931-8001** (代)
電話番号に変更はございません。



全国酪農業協同組合連合会

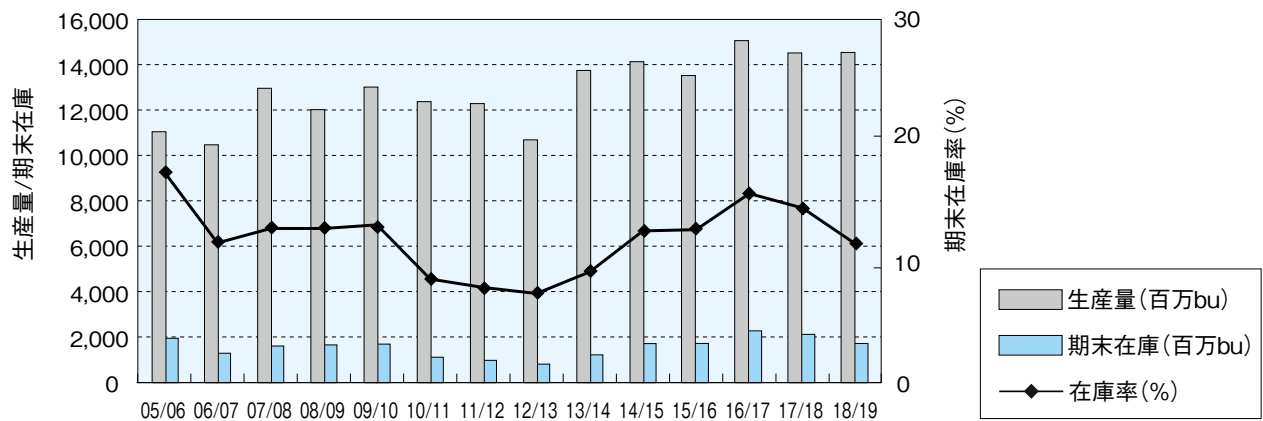


※イメージ

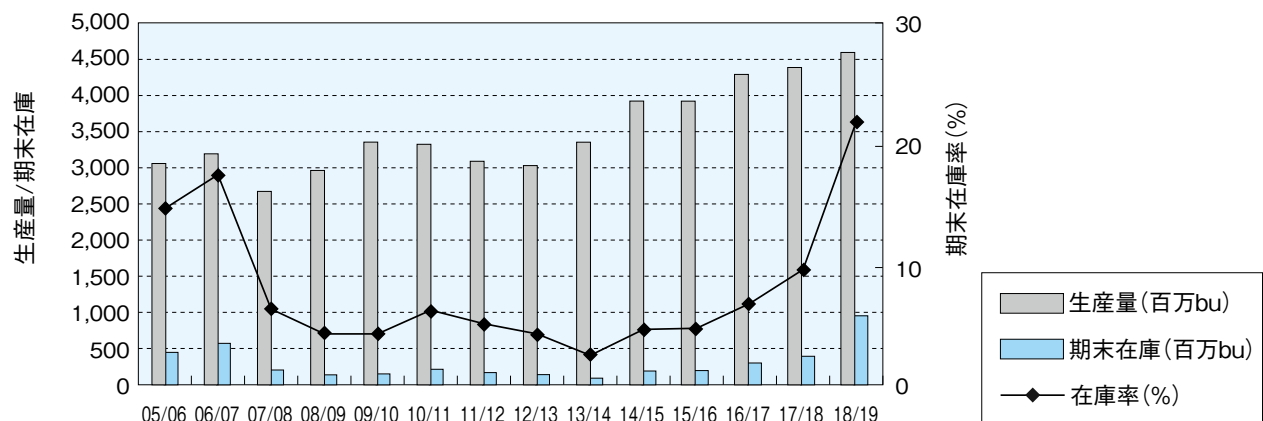


12月11日発表 米国農務省 トウモロコシ 需給予想		17/18年産	18/19年産
	作付面積 (百万エーカー)	90.2	89.1
	単 収 (ブッシェル/エーカー)	176.6	178.9
	生 産 量 (ブッシェル)	146億400万	146億2,600万
	需 要 量 (ブッシェル)	147億9,300万	150億3,000万
	期末在庫 (ブッシェル)	21億4,000万	17億8,100万
	在 庫 率	14.5%	11.8%
トウモロコシ 相場動向	トウモロコシ相場は上値の重い展開が続いていたが、米中首脳会談後から両国間の貿易問題が融和ムードになり強含みで推移している。18/19米国産クロップは豊作が確実であり、現在作付け期であるブラジル産も順調であるため生産量の面で心配は少ない。今後は米中貿易問題にさらに焦点が置かれる展開が予想される。		
大豆粕相場動向	米国農務省の需給予想では米国産大豆の需給は先月から何も変更はなかったが、世界の期末在庫は、ブラジルの生産量が引き上げられ112.1百万tから115.3百万tと、事前予想よりも大幅に引き上げられた。しかし、市場の関心は米中貿易戦争関連であり、中国の米国産大豆の買い付けに注意が必要である。		
糟糠類	【一般フスマ】 これからの時期、製粉メーカーの稼働は落ち込むものの飼料需要も落ち着くことから需給は若干緩む見通しである。しかし、小麦粉は小麦の歩留まり率の関係もあり、引き続き需給は引き締まっている。		
	【グルテンフィード】 国産品は工場の定期修理に入るため発生量が減少する。輸入品については中国国内での引き合い、海上運賃の上昇から価格競争力が見込めず、国産品への需要が高まるため需給は引き締まる見通しである。		
海上運賃	パナマックス市況は、原油安を受け下落していた相場は底を打ち、強含みで推移している。今後、米中関係が修復に向かうと引き合いが増加し、さらに強含む可能性がある。		

米国産トウモロコシ生産量と期末在庫の推移



米国産大豆生産量と期末在庫の推移





輸入粗飼料の情勢

平成30年12月

北米コンテナ船 フレート	米国西海岸ロサンゼルス／ロングビーチ港において、これまで昼間の通行のみを課金の対象となっていた「ピアパス」は、11月19日搬入分から夜間を含めた全日が対象となりました。前月号でもお伝えした通り、これらの課金は産地側で吸収できる性質のものではないため、輸入品価格へ転嫁されることとなります。
ビートパルプ	【米国産】新穀の収穫作業はほぼ終了しています。10月に入り、予想以上に降雨が多かったため一部の圃場では作業が遅れ、また例年よりも寒波の到来が早かった影響もあり、昨年に比べ1か月余り収穫のスケジュールは遅れています。既に圃場が凍結し収穫を断念せざるを得ず、当初見込みを大きく下回る収量となった地域も出ています。このため、ビートパルプペレットの生産量も大きく下方修正せざるを得ない状況となっており、大幅な減産が見込まれます。
アルファルファ	【ワシントン州】産地情勢に大きな変化はありませんが、軟調気味であった産地価格は底を打って上昇基調に反転しています。11月に入り中国向けの出荷は徐々に復調しており、関税の上昇前に輸入された在庫が一掃されつつあることが要因と考えられます。このため、直近の産地相場は9-10月よりももう一段上昇しつつあるようです。
	【オレゴン州】産地情勢に大きな変化はありませんが、米国内外からの高成分のアルファルファに対する需要は引き続き強い状況です。現地の天候は降雪や降雨が多くなってきており、産地からの原料草の配送に苦慮している模様です。
	【カリフォルニア州】北部では一部の早い圃場では6番刈に進んだ地域もありますが、ほとんどの圃場では今年の生産は終了しています。南部インペリアルバレーでも、今年の生産はほぼ終了しています。余剰在庫は少なく、国内外からの需要も堅調なため、直近の産地相場は一段と強含みで推移しています。多くのサプライヤーは、19年産以降も作付面積の大幅な増加はなく、国内外の需要は引き続き堅調との見方から、先々の相場も現行レベルで推移すると予想しています。
チモシー	【米国産】18年産1番刈は上級品を中心にほぼ完売となっています。やや余剰感があつた2番刈の中級品以下についても、豪州産オーツの生産量の減少から引き合いは増え始めると予想されます。発生量が少ない上級品への引き合いは引き続き堅調で、価格は上昇傾向にあり、中級品以下との価格差が広がっています。
	【カナダ産】南部レスブリッジ地区の18年産1番刈は収穫期の天候が安定したため、上級品の発生が80%前後で中級品以下が限定的となっています。2番刈は冷涼な天候により収穫が遅れ、やや刈り遅れ傾向であったため単収は例年に比べ大幅に増えたものの、中級品以下の発生が中心となりました。中部クレモナ地区の18年産は生育期の降水量不足と収穫初期の不安定な天候によって、上級品の発生は限られ、収量は例年の半分程度となっています。両産地とも大幅な価格上昇にも関わらず、産地在庫は一部の低級品を除きほぼ完売となっています。
スーダングラス	主産地インペリアルバレーでは、生産農家が保有している余剰在庫は限定的で、各サプライヤーが抱える在庫のみとなっています。茎細の上級品についてはすべて成約済となっており、中～低級品で若干の売り物が残っているようです。しかしながら、豪州産オーツヘイの生産量減少と価格の高騰を受け、安価なイネ科牧草として中～低級品への需要が急増しており、スーダンの産地相場は強含みに推移しています。
クレイングラス	クレインは全酪連の登録商標です。 11月15日付の作付面積は前年同月比119%となっています。好調な産地相場を背景に作付面積は回復傾向にあり、19年産は18年産以上の生産量が期待されます。18年産の産地在庫はほぼ完売となっており、良品の追加買付は極めて難しくなっています。一方、日本及び韓国からの需要は引き続き堅調で、直近の産地相場はさらに強含みで推移しています。背景には自給飼料不足の韓国の引き合いや豪州産オーツの生産減があり、僅かに残る良品以外の在庫も高値で買付けられており極めて堅調な相場を形成しています。
ストロー類	18年産のライグラスストローの作付面積は昨年に比べ70%ほどと言われており、生育期の降水量不足から単収も例年よりも減少しました。このため、生産量は大きく減じています。旧穀の繰り越し在庫もなく、韓国の自給飼料不足や日本向け中国産稲わらの供給懸念により、需要は非常に強く産地相場は日々上昇しています。一方、フェスキューストローの作付面積は増えており、ライグラスストローに比べると供給力は高いと思われます。
オーツヘイ	【豪州産】産地相場は、豪州国内の自給粗飼料が不足していることからオーツヘイへの引き合いがグレードを問わず強まっていること、日本、中国および韓国からの需要も堅調な状況が続いていること、豪州国内全体でのオーツヘイの生産量が例年よりも少なく、今後の需要動向次第では供給力に不安があることから、前月よりもさらに高値で推移しています。昨年に比べ大幅な価格上昇となるため、今後の需要動向には注視が必要と言えます。
	【西豪州産】西豪州では生育期に十分な降雨があったことから、生育は順調で全体の生産量は例年並みとなっています。しかしながら、9月下旬から10月上旬の収穫開始直後から断続的に降雨があり、西豪州の産地全域で降雨被害が発生しています。当地からの上級品の発生は非常に限定的で、中～低級品の発生が中心となっています。成分値は例年よりも低めの傾向で、圃場での乾燥期間が例年よりも長かったことから、緑目は弱く、やや色抜けしている印象が強く、茶葉はグレード毎で違いはあるものの例年並みに混入している印象です。
	【南豪州産】南豪州では、当初の予想よりも早魃及び収穫期の降雨の影響がひどく、単収は例年の50～80%程度、作柄としては上級品から低級品まで満遍なく発生する結果となりました。見た目、成分値ともの総じて例年並みとなっています。当地は豪州国内でも早魃状況が酷いニューサウスウェールズ州、クイーンズランド州に近く、豪州国内からの需要が非常に強く、特に中～低級品が高値で取引されています。生産量の減少と国内からの強い引き合いにより、各サプライヤーは中～低級品の集荷に苦慮しています。旧穀の在庫も国内需要に吸収されているため、当地からの供給量は例年よりも減少する見込みとなっています。
	【東豪州産】東豪州では、深刻な早魃の影響により収量は例年の40%程度となっています。当地においても収穫期の中盤に降雨がありましたが、早刈りの圃場ではベリング後であったため、品質面への影響は限定的と見られ、上級品の発生が中心となっています。早魃の影響から例年よりも茎は細目で、緑目濃い物から通常レベルのものまで幅広く発生しています。茶葉の色は濃くはないものの、例年に比べやや多めの傾向にあります。成分については早魃のストレスで高成分値が多く発生するものと期待されていましたが、総じて例年並みの値となっています。

全酪連
酪農セミナー2019・
ワークショップ2019
開催のご案内

哺育管理と腸の健康 ～下痢に“SAYONARA”～

全酪連は2019年2月にカナダのゲルフ大学からマイク・スティール博士を招聘して、全国3会場にて全酪連酪農セミナー（平成30年度）を開催いたします。スティール博士は、近年の哺育子牛の栄養研究において目覚ましい研究成果発表をして注目されている、新進気鋭の研究者です。セミナーでは、哺育子牛の栄養管理技術のトレンド、哺乳の実際、離乳期の管理、腸の健康と下痢、ロボット哺乳について講演される予定です。ワークショップでは、哺育栄養研究の最新情報とフォスター・テクニク社によるロボット哺乳に関する事例が紹介される予定です。ぜひご参加ください。

酪農セミナー2019

- 序章 イン트로ダクション
- 第1章 最新初乳事情
- 第2章 哺乳期管理
- 第3章 離乳移行期・離乳後の管理
- 第4章 下痢について
- 第5章 哺乳ロボットの紹介

ワークショップ2019

- 第1章 消化管健康の全貌
 - 第2章 成牛の消化管健康～ルーメンアシドーシス～
 - 第3章 哺乳期間の消化管健康
 - 第4章 離乳移行期・離乳後の消化管健康
 - 第5章 哺乳ロボットの紹介
- フォスター・テクニク社の紹介

講師紹介



マイク・A・スティール博士

ゲルフ大学
動物バイオサイエンス学部助教授

【学歴】

- ・2001年：カナダ、ゲルフ大学卒業
- ・2003年：同大学院で修士号取得
- ・2011年：同大学院で博士号取得

【職歴】

- ・2004年-2007年：北京にて酪農プロジェクトのマネージャーとして活躍。その後マスターシード社へ入社
- ・2012年-2014年：ニュートレコ社研究員
- ・2014年：カナダ、アルバータ大学助教授
- ・2014年-現在：カナダ、ゲルフ大学助教授

【研究分野】

- ・消化管の健康維持に関するメカニズム
- ・哺乳子牛の栄養と代謝、遺伝子発現
- ・哺育・育成牛における、栄養と腸内細菌叢との関係性

開催日時と場所 ※各会場とも開会は10:00、閉会は16:00の予定です。

2月18日㊦ 東京セミナー	ザ・グランドホール (品川グランドセントラルタワー内)
2月19日㊦ 熊本セミナー	菊南温泉 ユウベルホテル
2月21日㊦ 札幌セミナー	ホテル エミシア 札幌
2月22日㊦ 札幌ワークショップ	ホテル エミシア 札幌

参加費 1名様 ¥5,000
(テキスト・昼食代含む)

対象 酪農家・組合役職員・
公的指導機関、あるいは研究者・
獣医師・コンサルタントの方々

お申し込み・お問い合わせは、最寄の全酪連支所まで



Your Partner 全酪連



乳牛産地情報

平成31年1月1日現在

札幌支所 TEL 011-241-0765
釧路事務所 TEL 0154-52-1232
帯広事務所 TEL 0155-37-6051
道北事務所 TEL 01654-2-2368

価格状況 ▲……強含み ▼……やや強含み →……横這い ⇄……やや弱含み ↓……弱含み

事務所	畜種	相場(万円)	価格状況	管内状況
札幌管内	育成牛(10-12月令)	43~53	→	札幌管内の12月中旬までの生乳生産量前年比は、函館管内月計で98.3%、累計で100.5%、苫小牧管内月計で96.4%、累計で98.5%の実績となっております。1月の初妊牛動向といたしまして、3~4月分娩予定中心で動くものと思われます。12月の同地域の乳牛市場はやや強含みの相場展開をみせましたが、スゾ物を含め全体が上がったような印象で、庭先購買で選ぶ中クラス以上の初妊牛は前月の予測と同様の80~90万円の価格となると考えられます。庭先購買では雌雄選別腹が斡旋しやすい状況となっています。育成牛につきましては、他地域での動きと同じように、これまでの価格からすると軟調な動きを維持するものと思われます。
	初妊牛	80~90	→	
	経産牛	47~52	→	
釧路管内	育成牛(10-12月令)	50~60	→	根釧管内の12月中旬までの生乳生産量前年比は、釧路管内月計で99.8%、累計で100.2%、中標津管内月計で100.7%、累計で100.1%の実績となっております。1月の初妊牛動向といたしまして、4月分娩が中心となります。管内乳牛市場では上場頭数も増え、価格は軟調傾向ではあるものの、中クラス以上については先月よりも高値で取引されており、春産みの需要も多いことから価格は横這い以上で推移するものと思われます。資源状況につきましては、F1腹、雌雄選別腹ともに例年以上に確保出来る状況となっております。育成牛につきましては、軟調で推移しておりましたが、春産みとなる月齢の牛については横這いで推移するものと思われます。
	初妊牛	85~95	→	
	経産牛	60~70	→	
帯広管内	育成牛(10-12月令)	45~55	→	帯広管内の12月中旬までの生乳生産量前年比は、帯広管内月計で102.7%、累計で103.5%の実績となっております。1月の初妊牛動向といたしまして、3~4月分娩予定中心で動くものと思われます。資源が例年より増加傾向にある中ではありますが、この地域の12月乳牛市場が強含みで推移したため、庭先購買価格も前回の予測と比較し、やや強含みで動くものと思われます。資源はF1腹、雌雄選別ともに十分に確保できるものと思われます。ここ数か月は軟調な動きを見せていた和牛授精卵移植腹も12月は強含みの相場となりましたので、庭先購買価格も同様の動きとなるものと思われます。
	初妊牛	87~97	⇄	
	経産牛	52~62	↓	
道北管内	育成牛(10-12月令)	45~55	↓	道北管内の12月中旬までの生乳生産量前年比は、稚内管内月計で97.4%、累計で99.1%、北見管内では月計で102.1%、累計で101.8%の実績となっております。1月の初妊牛動向といたしまして、3~4月分娩予定が中心となります。道北管内の乳牛市場では頭数の増加もあり価格の変化があまり見られませんでした。このため庭先購買も同様に価格は横這いで推移すると思われます。しかしながらこれから春産みで需要の多い時期となることから、牛なりの良いものについては80万円台後半となる可能性もあります。資源は全体としては昨年と比較し増加傾向にありますが雌雄判別腹が多く、F1腹は若干少ない状況です。依然としてF1腹は引き合い強いことから価格の上昇も考えられます。
	初妊牛	80~85	→	
	経産牛	50~58	⇄	
道内総括	育成牛(10-12月令)	47~57	→	道内の12月中旬までの生乳生産量前年比は100.7%、累計で101.2%の実績となっております。1月の初妊牛動向といたしまして、春産みが取引の中心となります。ここ数年、道内の乳牛市場の出場頭数については、育成牛は前年を上回り、初妊牛は前年を下回って推移しておりましたが、今年度については育成牛、初妊牛ともに前年を上回って推移しております。資源状況と致しましては、前年並み以上に確保できるものと思われます。初妊牛価格につきましては、道内各地で多少の上げ下げのバラつきがあるようですが、1月以降の価格については、道内外の酪農家の生乳生産意欲も高く、春産み需要もあることから横這いからやや強含みで推移するものと思われます。
	初妊牛	85~95	→	
	経産牛	55~65	→	

今月の表紙

今月の表紙は、「第9回酪農いきいきフォトコンテスト」(第47回全国大会にて開催)で応募頂いた作品「小さなリードマン」(群馬県 細野まみ氏 撮影)です。



編集後記

●新年あけましておめでとうございます。皆様には、健やかに新春を迎えられたことと、お慶び申し上げます。2019年も引続き、皆様にご愛読いただける内容盛りだくさんで全酪連会報をお届けできるように尽力して参ります。本年も宜しくお願い致します。



平成31年1月10日発行(毎月1回10日発行)

全酪連会報 1月号 No.640

●編集・発行人 戸辺誠司

●発行 全国酪農協同組合連合会

〒108-0014 東京都港区芝四丁目17番5号

TEL 03-5931-8003 <http://www.zenrakuren.or.jp/>

今月の

らくのう

こどもギャラリー

入賞作品紹介



大きなおなかに赤ちゃん

筑前町中牟田小学校(九州)4年 湯浅 未来

今月の入賞作品は…

筑前町中牟田小学校(九州)4年の湯浅 未来さんの作品です。

おなかに赤ちゃんがいるお母さんの牛さんを描いた作品です。直線を使ってダイナミックに画面を構成しています。牛さんは細部までよく観察して描いています。顔に凛々しい眉毛を描いたことで、ほのぼのとした良い表情になりましたね。



※この作品は本会と全国酪農青年女性会議共催の「第45回らくのうこどもギャラリー」で全国833点の応募作品から入賞12点に選ばれたものです。

主催 全国酪農青年女性会議